

99年夏、福井アカトンボ調査

99年アカトンボ調査隊（福井県自然保護センター）

7月から8月にかけて奥越地方の高い山に登ると、たくさんのアカトンボを見かけます。これらのほとんどはアキアカネというトンボです。夏の間、アキアカネは暑さを避けて涼しい山々で避暑しているのです。

アキアカネは6月末から7月上旬にかけて主に水田で羽化します。その後避暑のため高い山の方へ移動し、再び水田に見られるようになるのは9月になってからです。「夕焼けこやけの赤とんぼ…」と童謡で歌われるのは、秋になり産卵のために水田に戻ってきたアキアカネのようすを表現したもので、日本の秋の代表的な風物詩といえます。

自然保護センターでは、この避暑のようすを調査することで身近なアカトンボの生態の一端に触れていただこうと、平成11年8月7~8日にかけて、石川県立農業短期大学上田哲行教授のご指導のもと、アカトンボ学の講義、調査方法、現地調査などの研修会を開催しました。

1. 目的

- (1) トンボ類の高度分布調査
- (2) マーキングによるアキアカネの移動ルート調査

2. 調査地及び調査方法

(1) 高度分布調査

調査地として、大野市赤兎山の登山道、国道157号線の分岐から登山口までの林道、勝山市街地の東側の山の裾野など14カ所を選定しました。いずれも加越国境の山塊の裾野に位置し、尾根をたどれば赤兎山に至る地域です。調査方法は一班が3~4名のグループを六班構成し、100~600mの調査区をゆっくりとした速度で歩き、周囲で確認されたトンボ類の種名と個体数を記録しました。赤兎山の赤池において、産卵

のためになわばり防衛をしている種については記録しませんでした。

班ごとに得られたデータは、100m単位に補正し、六班の平均個体数を算出しました。

(2) マーキング調査

標高1,628mの赤兎山頂から1,580mの赤兎平にかけての約600mの区間で、午後の2時間程度、可能な限りアキアカネを捕獲し、白のペイントマーカーで翅にアルファベットの「F」の文字を記入した後、その場で放虫しました。



マーキングしたアキアカネ

3. 結果

(1) 高度分布調査

アカトンボ類は4種(アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボ、マユタテアカネ)が記録され、アキアカネの個体数が最も多く、広い範囲に分布していました。アキアカネは1,000mを越すと多くなり、他のアカトンボ類は1,150mを越すとほとんど記録されなくなりました(図1)。

アカトンボ類以外のトンボは5種(ウスバキトンボ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、オニヤンマ)が記録され、オオシオカラトンボが最も普通種でした。これらのトンボ類は標高が高くなるにつれて個体数が減少し、730m以上では全く記録されませんでした(図2)。

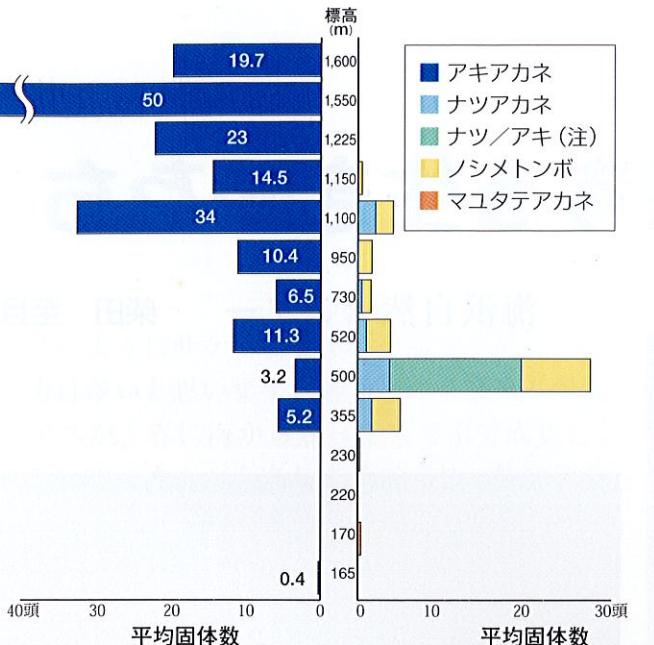


図1 勝山市におけるアカトンボ類の高度分布

(注)「ナツアキ」とはナツアカネまたはアキアカネのいずれか同定できなかった場合のものである

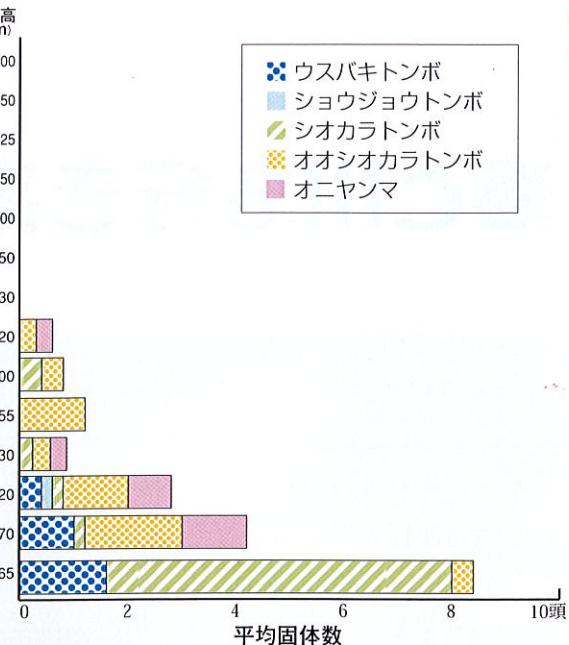


図2 勝山市におけるトンボ類の高度分布(アカトンボ類を除く)

す。今回の調査で記録された標高165mの2個体は、羽化遅延または平地での越夏の個体と推定されます。

情報が寄せられた個体のマークは、「F」ではありませんでした。このアキアカネは採集されていないので確かめることはできませんが、可能性として以下のことが考えられます。

- ・「F」が「△」に見えた。
- ・他の所で同様な調査をした方がいた。

このことは、今後も調査を進めていく上で課題となるでしょう。

5. 調査参加者(順不同・敬称略)

上田哲行、北本尚子、井草貴男、吉田衛司、吉田成人、小幡谷照子、矢村健一、長田勝、羽田義任、小林史弥、小林茉央、小林英泰、野尻浩幸、渋谷君江、齊藤衣代、石川藤子、網田美喜子、花山邦子、宇都宮央子、中村隆夫、岡田正雄、多田雅充、亀谷良治、松村俊幸

調査及びとりまとめは、上田教授にご指導をいただき松村が行いました。

6. 追記

8月7日に、自然観察の森で実習をした際にマーキングした中のリスアカネ1頭が、8月26日にはほぼ同じ場所で再確認されました。この個体は、少なくとも20日間、同じ場所で生活していたのでしょうか。